

児玉幸多先生をお送りする

児玉幸多先生のお誕生日は十二月八日である。この日は過ぐる太平洋戦争の開戦記念日で、半戦中派のわたくしにはどうしても忘れられない日になっている。だから、先生のお誕生日は最初に伺ったとき以来そらで憶えているのだが、お生まれの年の方はそうはいかない。それで調べてみたら、明治四十二（一九〇九）年生まれとある。学習院大学の規定に従い、先生は今年三月末で御退職になる。

先生が学習院教授の任に就かれたのは昭和十三年のことである。その時から四十年以上の長きにわたって学習院と歩みをとみにされ、その間、中等科長・女子短期大学学長・大学学長として学習院の運営にも顕著な御貢献をされた。

しかし、わたくしども学習院大学文学部史学科のメンバーにとつては、何よりも史学科の先生としての児玉先生であつた。先生を初代主任として史学科が開設されたのが昭和三十六年だから、もう二十年近くもお世話とお交わりをいただいたことになる。先生が日本近世史研究の第一人者でいらっしゃることにについてはいまさら申すまでもないし、入学式や卒業式の際の学長告示に先生の御識見の高さが窺われることもしばしばだったが、史学科の中でふだん身近に接する先生は、温顔の、むしろ近づきやすい先生だつた。もちろんつけるべきけじめはきちんとつけられたが、慎重で的確な御判断と

暖かい御配慮がいつもそこには伴っていた。このような先生の御指導をいただくことができたのは、研究室のスタッフにとっても学生にとっても本当にしあわせだったと思う。

先生に対する感謝の気持と楽しい思い出は尽きないし、先生をお送りするのはまことに心残りでもある。ただ幸い先生は目下たいへんお元気そうにお見受けする。先生の末永い御健康と、先生によって基礎を置かれた史学科のいっそうの発展を祈りつつ、『学習院史学』本号を先生にお捧げする次第である。

昭和五十五年三月

清 永 昭 次